

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス

代表取締役社長 鈴木 郷史 殿

化粧品動物実験廃止を求める要望書

私たちは、美しさを追求するはずの化粧品開発に際して、美しさとは対極に位置する残酷な動物実験が行われていることに強い憤りを覚え、一刻も早くそれが全廃されることを望んでいます。

これまで貴社は、傘下のグループ企業またはブランドのウェブサイト上で「動物実験をしません。私たちは、自然環境への配慮と生態系の維持という観点から動物実験を行いません。」(THREE)、「オルラーヌでは、動物実験は実施しておりません。」(オルラーヌ)、「弊社では、商品開発に際し動物を用いた試験は一切行っておりません。また、今後行う予定はございません。お客さまが安心してお使いいただける化粧品をお届けする為、商品の製造を委託している会社においても、弊社商品の安全性は、動物を用いた方法によらず永年の処方実績に基づいて判断され、必要に応じ培養細胞を用いた代替試験法、さらにはボランティアによる使用試験を加えて保障されております。」((株) pdc) というように、「動物実験をしない」との方針を公表されています。

また、社名の上でも貴グループを代表するオルビス(株)をして「製品並びに使用している原料の動物実験を、自社で行うことも、原料メーカーまたは他機関に依頼することもしておりません。また、新規原料を採用するために、動物実験をする予定もございません。(略)オルビスは、私たちを取り巻くすべてのもの、人にも地球にも優しくありたいと願っています。人にとっても動物にとっても同等にかけがえのない生命を犠牲にすることなく、今後も堅実な努力を積み重ねていきたいと考えています」と、消費者の照会に対して答えておられます。

すなわち、貴社が「化粧品・医薬部外品開発にあたって、動物実験を行うことは望ましいことではない」と認識されている、あるいは、「消費者が動物実験を望んでおらず、企業はそれに応えるべきである」との考えをお持ちだと、当会は確信を抱いております。

しかし残念ながら、現段階において、(株)ポーラおよびポーラ化成工業(株)を

含む、ポーラ・オルビスグループが、化粧品・医薬部外品の動物実験を廃止したとの情報は得られておりません。

2013年3月に実現したEUの完全禁止からまもなく2年を迎えようといういま、貴社に、「美しさに動物の犠牲はいらない」と考える消費者の意向を重く受け止め、化粧品のための動物実験を例外なく廃止し、外見的な美しさだけではない、真の美しさを提供してくれる企業となっていたいただきたいと願い、下記のとおり要望いたします。

記

1. 原料・完成品、自社における実施・外部委託を問わず、化粧品・医薬部外品のために行っている動物実験をすべて廃止してください。
2. 子会社・系列会社などの関連会社においても、同様の動物実験をすべて廃止してください。
3. 上記動物実験を廃止した旨を公表してください。

上記各要望事項につきまして、1月20日までに書面にてご回答くださるよう、お願い申し上げます。

2014年12月26日

〒150-0042

東京都渋谷区宇田川町12-3 ニュー渋谷コーポラス1009

アニマルライツセンター内 TEL/FAX03-3770-0720

美しさに犠牲はいらないキャンペーン実行委員会

亀倉弘美 (JAVA 理事)

岡田千尋 (ARC 代表理事)

東さちこ (PEACE 代表)

構成団体：NPO 法人動物実験の廃止を求める会 (JAVA)

NPO 法人アニマルライツセンター (ARC)

PEACE～命の搾取ではなく尊厳を